

「ふくしまの未来を考える」シンポジウムの結果について

1 開催日・開催場所

| | | | | |
|--------|-------|-------|-----|-------------|
| 郡山会場 | 平成21年 | 1月8日 | (木) | ビッグパレットふくしま |
| 会津若松会場 | | 1月9日 | (金) | 会津アピオスペース |
| いわき会場 | | 1月15日 | (木) | いわきアリオス |

2 参加者数

| | |
|--------|------|
| 郡山会場 | 200人 |
| 会津若松会場 | 114人 |
| いわき会場 | 116人 |

3 「意見・質問票」

| | |
|--------|-----|
| 郡山会場 | 21件 |
| 会津若松会場 | 15件 |
| いわき会場 | 13件 |

4 アンケート回収結果

| | | |
|--------|-----|-------------|
| 郡山会場 | 78件 | (回収率39.0%) |
| 会津若松会場 | 65件 | (// 57.0%) |
| いわき会場 | 58件 | (// 50.0%) |

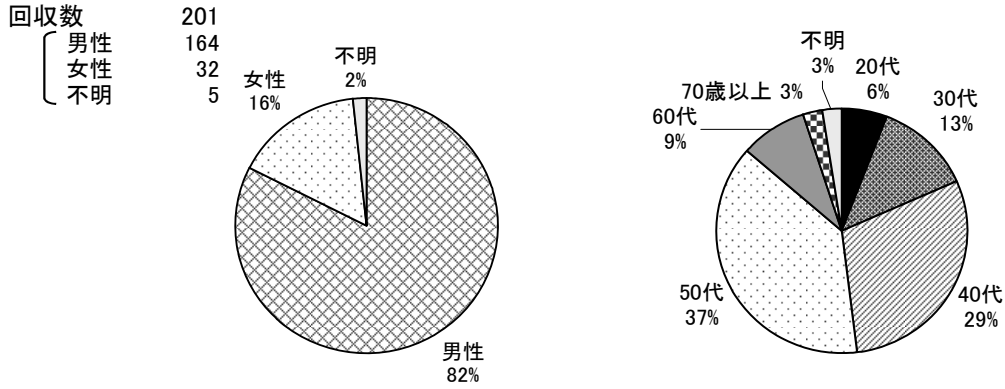
5 アンケート結果

P 2 「ふくしまの未来を考えるシンポジウム」アンケート結果のとおり

6 シンポジウム意見要旨

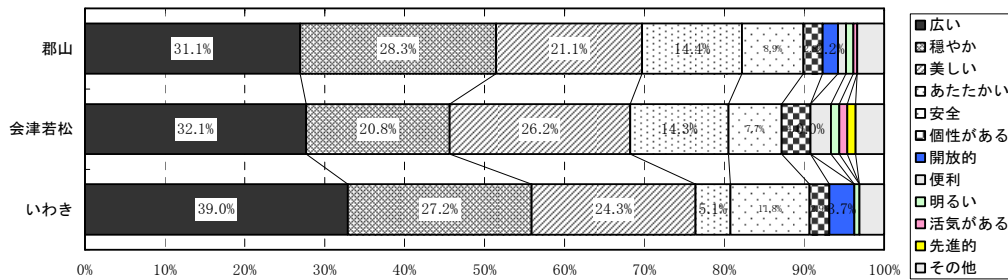
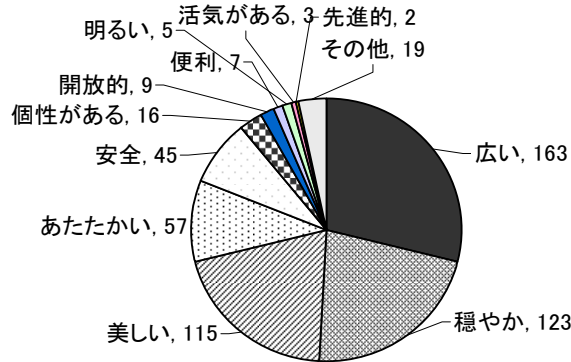
P 3 「ふくしまの未来を考えるシンポジウム」意見要旨のとおり

「ふくしまの未来を考える」シンポジウム アンケート結果



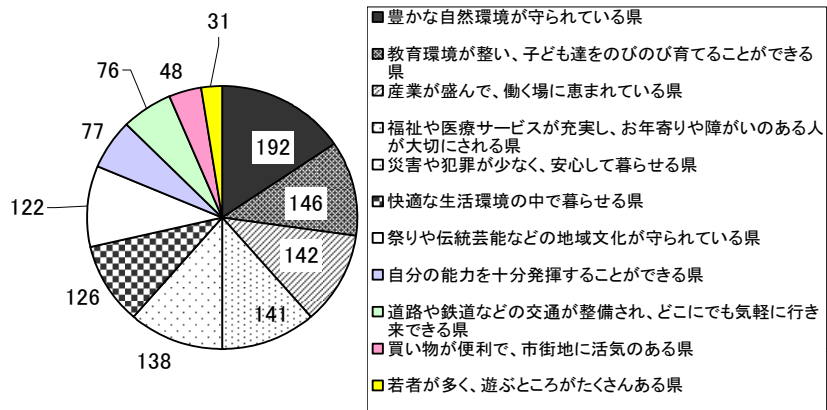
問1 「現在の福島県」のイメージとして、どのようなことを思い浮かべますか。(複数回答可)

| | |
|-------|-----|
| 広い | 163 |
| 穏やか | 123 |
| 美しい | 115 |
| あたたかい | 57 |
| 安全 | 45 |
| 個性がある | 16 |
| 開放的 | 9 |
| 便利 | 7 |
| 明るい | 5 |
| 活気がある | 3 |
| 先進的 | 2 |
| その他 | 19 |



問2 これから福島県はどのような県になってほしいですか。(複数回答可)

| | |
|------------------------------------|-----|
| 豊かな自然環境が守られている県 | 192 |
| 教育環境が整い、子ども達をのびのび育てることができる県 | 146 |
| 産業が盛んで、働く場に恵まれている県 | 142 |
| 福祉や医療サービスが充実し、お年寄りや障がいのある人が大切にされる県 | 141 |
| 災害や犯罪が少なく、安心して暮らせる県 | 138 |
| 快適な生活環境の中で暮らせる県 | 126 |
| 祭りや伝統芸能などの地域文化が守られている県 | 122 |
| 自分の能力を十分発揮することができる県 | 77 |
| 道路や鉄道などの交通が整備され、どこにでも気軽に行き来できる県 | 76 |
| 買い物に便利で、市街地に活気のある県 | 48 |
| 若者が多く、遊ぶところがたくさんある県 | 31 |



「ふくしまの未来を考えるシンポジウム」意見要旨

○ 全体のイメージ

- ・住まう地域を次世代に損なうことなく、よりすばらしい姿にして引き継ぐこと。
- ・地域の価値・魅力を知り、生かし、発信していくこと。誇りにつながる。
- ・変えるべきでない（大事にし続ける）部分、柔軟に対応する部分の双方の視点が重要（不変を以て万変に応ず、戦略と戦術、トレンド軸と成長軸など）。
- ・農村で生活出来る視点が重要。6次産業化、総合産地化、真の自給率100%へ。
- ・地域の個性を高めるために多文化共生がより重要となる。
- ・七つの生活圏は全国でも貴重な地域政策。地域の個性を高めるためにも当面必要。
- ・豊かな社会とは、住んでいる人が自己実現できる仕掛けが出来ている地域。

1 郡山会場（1/8 ビックパレットふくしま）

- ・講演者の鈴木教授から、地域像、七つの生活圏の継続、地域力・市民力の向上、都市計画の見直し、農林水産業・農山漁村の再生など総合的な問題提起がなされた。
- ・シンポジウム全体としては、鈴木教授が提唱した、次世代に損なうことなく、よりすばらしいものにして引き継ぐことが必要との姿勢が基調となった。

（主要な意見）

- ・地域に既にある魅力や価値を見直し、生かすことが重要
- ・次代への継承、需給ひっ迫の観点から農業の重要性
- ・農業・農村の観点から6次産業化が重要、本県のモデルづくりも必要

（会場からの質疑）

- ・農業だけで生きていける社会にしていくにはどうしたら良いか
- ・人材の育成、NPOの中で市民力が高まるための道筋は何か

2 会津若松会場(1/9 アピオスペース)

- ・講演者の小松氏からは、「戦略（あまり変えない）と戦術（柔軟に変える）」の重要性、多様化するライフスタイルの対応、福島に育まれた人財・食材の価値向上、地域で継続して事業が営める仕組みなどについて話があった。
- ・全体としては、「地域の価値の確認、自信をもった発信」、「変えてはいけないもの、変えるべきもの（戦略と戦術、不変を以て万変に応ず）」、「多文化共生」「自己実現ができる社会づくり」との姿勢が基調となった。

（主要な意見）

- ・地域に既にある魅力や価値を見直し、生かすことが重要
- ・地域の個性を高めるには、多文化共生の考え方が重要
- ・農村の観点からの農業政策・福祉政策が必要

(会場からの質疑)

- ・ 過疎・中山間地域において若者の定着をどのように進めるか
- ・ いかにスムーズに異質なものを排除しないようにできるか

3 いわき会場 (1/15 いわき市アリオス)

- ・ 講演者の服部氏からは、「トレンドに惑わされずに安定成長を描くこと、その範囲でトレンドに対応すること」の重要性、無理をせずに地域の人で出来る範囲でやること、多様化するマーケットに機会があること、自信と誇りを持ち、発信することなどについて話があった。
- ・ 全体としては、福島の有する力を生かした取組みとすること、地域の総合力を高めること(自給可能な地域を目指す)、地域の誇りを高めること、交流人口が重要となることなどの議論が基調となった。

(主要な意見)

- ・ 交流人口により定住人口の減少を克服することが可能
- ・ 真に自給自足できる県づくりを目指すべき
- ・ 福島の個性にあった農業(多就業)を展開すべき
- ・ 誇りを持つには自分の地域を知り、知ってもらうこと
- ・ 人材育成、地域活動団体の成長を支援していくことが重要
- ・ 個性ある地域づくりのため、七つの生活圏の考えが重要

(会場からの質疑)

- ・ 人口減少社会において七つの生活圏を維持できるか
- ・ 農業を産業として自立させるにはどうすれば良いか
- ・ 地域づくりに必要なことは何か